

## 【喝！日本】なぜ若者はコロナ感染に“無関心”？ 自分さえよければいい…個人主義を注入し続けた 「戦後教育の末路」

2020.4.7



新型コロナウイルスの対応にあたる米国境警備隊の隊員たち（A P）

### ■非常事態に評論不要！！国民と政府一体で「国難の克服」最優先を

まるで悪夢を見ているようだ。新型コロナウイルスという「未知の敵」が想像以上の猛威を振るい続けている。世界全体の感染者は2日に100万人、死者は5万人を超えた（米ジョージア・ホプキンス大学集計）。わが国では3日午後時点で、2777人が感染し、73人が亡くなった。国民的人気を誇ったコメディアン志村けんさんも、新型コロナウイルスによる肺炎で亡くなり、多くの国民はウイルスの怖さを痛感した。

英国では、チャールズ皇太子の感染が確認され、ボリス・ジョンソン首相が感染を公表した。米人気俳優のトム・ハンクスさんや、カナダの首相夫人の感染も明らかになるなど、世界各国で著名人の感染が相次いでいる。彼らはメディアを通して、ウイルスの恐ろしさを訴えている。治療に当たる医師や看護師の奮闘を伝えるニュースは、まるで生き地獄を見るようだ。

各国の新型コロナウイルスとの闘いは、まさに国家挙げての総力戦だ。フランスのエマニュエル・マクロン大統領は、フランス軍が設営した野営病院をマスク姿で視察した。その場で国民に、ウイルスとの戦いを「戦争」に例えて、「国民はこの戦争で一つにならねばならない」と訴え、テレビを通して、外出禁止令の実施を発表した。

ドイツのアンゲラ・メルケル首相は、感染の拡大は「第二次世界大戦以来、わが国にとって最大の試練」と強調した。前出のジョンソン英首相も「みんなでウイルスをたたきのめそう。家にいて、生命を救ってください」と声を上げた。

産経新聞によると、世論調査の結果、フランスでは95%が、イタリアでは94%の国民が、外出禁止や商店閉鎖などの政府の感染防止対策を支持しているという。国家の厳しい措置に国民が納得し、「生」への執念さえ感じられる。

日本でも、志村さんのほか、日本サッカー協会（JFA）の田嶋幸三会長や、プロ野球・阪神タイガースの藤浪晋太郎投手、近鉄や日本ハム、楽天で監督を務めた野球解説者の梨田昌孝さんらが陽性になっている。

これまでは中高齢者の感染が強調されてきたが、ここに来て、若年層に拡散、若者や子供の感染が焦点となっている。

想像を絶する感染拡大に、東京都は、不要不急の外出自粛を都民に求めている。だが、若者には十分に浸透していないようだ。

若者の一部には「あれもダメ、これもダメでは気がめいる」「感染するとはかぎらない」などの声もあるといい、危機感は希薄だ。自身が感染するのは自己責任だから、どうぞご自由にと言いたいのが、他人に感染させることを考えると、ご自由にとはいかない。

なぜ、生き死にに対して、これほど無関心？ 冷静？ でいられるのか。筆者には、権利と自己主張に終始し、義務を軽視、自分さえよければいいという間違っただ個人主義を注入し続けてきた「戦後教育の末路」を見る思いだ。

“新型コロナ事件”は戦後日本人のさまざま顔を浮き彫りにしている。若者の態度について、大学生の息子を持つ評論家が、あるワイドショーで「息子が、新型コロナウイルスに無関心だから困ったものだ」と冷静に言い放ち、若者を批判していた。この評論家はわが子に、このウイルスの怖さを理解させる努力をしたのだろうか。息子との対話については触れなかったが、理解させられなかったことは想像がついた。わが子でさえも説得できないのに、声高に正論を唱える。思わず、苦笑してしまった。

「緊急事態宣言」についても同様だ。

日本医師会（日医）は「緊急事態宣言をした方がいい」という意見が支配的のようだが、一部評論家やジャーナリストからは「私権が侵害される」「ほかにも手段があるはずだから知恵を絞るべきだ」という意見が聞かれる。この期に及んでだ。非常事態に評論はいらぬ。イデオロギーもいらぬ。国民と政府が一体となって「国難の克服」を最優先すべきではないか。

方策の是非は別として、新型コロナと対決する他国の姿に、真のナショナリズムを感じるのだ。

■宮本雅史（みやもと・まさふみ） 産経新聞編集委員 1953年、和歌山県生まれ。慶應義塾大学卒業後、産経新聞社入社。90年、米国・ハーバード大学国際問題研究所に留学。93年、ゼネコン汚職事件のスクープで日本新聞協会賞を受賞。司法記者クラブと警視庁記者クラブのキャップ、バンコク支局長、那覇支局長などを歴任。琉球空手、古武道、秘武術の「本部御殿手真武館宮本塾」を主宰。著書に『歪んだ正義－特捜検察の語られざる真相』（角川文庫）『爆買いされる日本の領土』（角川新書）、『領土消失』（同）など多数。

©2017 The Sankei Shimbun & SANKEI DIGITAL